

世界の人とふれあいタイム

2010年6月20日 実施
世界の人とふれあいタイムは、今回で50回目を迎える事が出来ました。



マルセラさん

本日のゲストのマルセラさんは、武蔵野市在住で来日20年の語学教師(スペイン語&英語)で、3人の子供の母親でもあります。メキシコ(正式名:メキシコ合衆国)の概要は、人口約1億人、面積197万K㎡、首都はメキシコシティで言語はスペイン語です。旗の意味は、緑が独立と希望、白が信じる力、赤は統一だそうです。有名料理はエビ料理、トルティヤ、タコス、プリトス等で日本でも馴染み深い名前です。なお主食であるトルティヤは、トウモロコシでできていて、食材の原料は、豆、米、野菜、鶏肉、豚肉、牛肉、海藻類が多いそうです。

歴史を振り返りますと、紀元前1250年頃から紀元前後にわたって栄えた文化、文明の名称がオルメカ文明で、皆さん良くご存じのアステカ(1325年頃～1521年頃)はメソアメリカ文明の王国だそうです。その後、スペイン植民地時代(1521年以降)には、アステカ帝国が滅びました。ちなみに、今年はスペインの独立から200年、メキシコ革命から、ちょうど100年目を迎えています。なおメキシコの3大観光地は、メキシコシティ、カンクン、アカプルコで、どの都市も大変有名ですね。

さて、スピーチで印象に残った内容は、「死は人生の一部です。死ぬことを恐れていない、だからお祝いします」との言葉でした。また、彼女のいつも感じている事は、「どんな場合でもコミュニケーションは、意思疎通の手段として欠かす事は出来ません。スペイン語、英語、日本語、いかなる言語であってもシャイ



メキシコの民族衣装

にならずに自分を表現する事がお互いに理解出来る第一歩であり、視野を広げる事に繋がっていく」との表現でした。

一方言葉については、「言葉は手段です。沢山の外国人が日本にもおります。ただ単に彼らと通り一遍の話をするだけでなく、それよりも一歩踏み込んで、それらの交流を通じて広く社会参加をし、社会に還元できるものにつなげる事が大事になると思います。」との内容でした。これこそが、今後日本がグローバル化に向かっていく、原点になるものと確信しています。

今回は、10月31日(日)「中国の話」です。

世界の人とふれあいタイム委員 生山龍哉

研修の報告

外国につながる児童生徒のための学習支援研修会

7月17日に「外国人の子どもたちに力をつける」というテーマで、講師清水睦美氏のお話を聞きました。

清水氏は現在、東京理科大学理工学部教養准教授で、NPO教育支援グループ「Edベンチャー」の副代表でもあります。神奈川県の一歩団地を中心とするニューカマーの子ども達を対象とする研究をし、現場にも継続的に関わっています。

私は昨年発行された「一歩団地発！外国人の子どもたちの挑戦」(清水睦美編著者)を読みました。この本は外国人の子ども達の当事者団体「すたんどばいみー」を運営する学生達自身が執筆者ですが、彼らを支援する学校教諭なども執筆に加わっています。私は今までに支援者の立場からの本を読んだり、研修会で話を聞いたりしたことはありましたが、外国人の子ども達のほんとうの思いを聞いた事はなく、衝撃的でした。そこで、早速メンバーにもこの本を読んでもらい、清水氏を講師に依頼し、研修会を開催することにしました。

支援者として支援の前に知っておく必要があると思われることは①子ども達の来日の経緯の違い②日本の学校の受け入れ方③外国人の子ども達が経験すること④家族の中で経験すること等でした。その他、ニューカマーとオールドカマー、言語による学校との壁(日本語)、言語による家庭との壁(母語)、親の事情が支配する家族、家族の中にある2つの世界(国際結婚家族)などについて実例を挙げながらの実践者としての話でした。日本の文化が支配する学校と親の文化が支配する家庭との両方を行き来している子どもたちには様々な葛藤があるということに、子ども達の置かれている厳しい環境を再認識し、支援者としての心構えもいかに大切かを痛感しました。

支援の形としては日本人ボランティアによる教室は「庇護ニーズに基づく支援」で、当事者団体(外国人青少年運営)による教室は「要求ニーズに基づく支援」であると聞きました。8月28日にはその2つの教室を見学するスタディツアーで、一歩団地の「すたんどばいみー」の教室も見学しました。当日は夏休み最後の図工の先生による授業で、外国人のスタッフが子ども達に寄り添って楽しく絵を描いていました。授業の後、スタッフ



と私達参加者との話し合いの機会もありました。スタッフは本に登場した人達だったので、彼らの顔を見ながら話が出来て感動しました。学校や家庭の中で居場所を求めながら「すたんどばいみー」で成長した彼らの姿を見てとても頼もしく思いました。「北野学習支援教室」の子ども達も将来に希望を持って成長して、いつか後輩を支援する立場になることを夢見ております。

学習支援プロジェクト委員 佐藤敏子